

第1回中川村総合戦略検討委員会 議事録

1 開催日時等

平成27年6月8日(月) 19:00～21:00

中川村基幹集落センター集会室

2 出席者(委員)

委員 中川村商工会	桃沢 傳(代理 米山正克商工会副会長)
委員 中川村建設業協会	宮下 進吾
委員 J A上伊那	宮崎 美和子(欠席)
委員 中川村農業経営者会議	米山 勝博
委員 中川村教育委員会	松村 隆
委員 元信州大学教授 宮城大学名誉教授	岡村 勝司
委員 アルプス中央信用金庫	吉澤 孝
委員 八十二銀行	小林 修
委員 田島建設株式会社	古田 亘
委員 中川村商工会女性部	山崎 美代子
委員 中川村商工会青年部	知久 史朗
委員 結婚相談員	桃澤 貴美
委員 片桐保育園保護者会	大場 孝幸
委員 みなかた保育園保護者会	倉澤 登(欠席)
委員 西小学校PTA	松村 道子
委員 東小学校PTA	富永 志保(欠席)
委員 中川中学校学校PTA	北島 由利江
委員	宮崎 政彦
委員	大竹 秀子
委員	諸田 茂
委員	山内 新一

(敬称略)

曾我村長
河崎副村長

事務局

総務課長

総務課企画広報係長

総務課企画広報係

株式会社 環境計画

株式会社 環境計画

福島 喜弘

松村 恵介

小林 和弥

松澤 等

藤原 さおり

3 配付資料

- (1) 次第
- (2) 中川村総合戦略検討委員会設置要綱
- (3) 中川村総合戦略検討委員会 委員名簿
- (4) 別紙1 まち・ひと・しごと創生総合戦略（概要）等
- (5) 別紙2 中川村の人口の現状分析
- (6) 別紙3 中川村まち・ひと・しごと創生総合戦略村民意識調査実施概要（案）他

4 議事

- (1) 開会（19:00）
- (2) 開会あいさつ
- (3) 村長あいさつ
- (4) まち・ひと・しごと創生総合戦略と検討委員会の役割について（別紙1）
事務局より、まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要及び検討委員会の役割、設置要綱等について、別紙1、内閣府配布のビデオ等により説明を行った。
- (5) 委員の委嘱
- (6) 自己紹介
- (7) 委員長・副委員長の選出
委員長 岡村 勝司（元信州大学教授、宮城大学名誉教授）
副委員長 宮崎 美和子（JA上伊那理事）
- (8) 委員長あいさつ
- (9) 協議事項
 - ① 中川村版総合戦略の策定について（別紙2）
事務局より、以下の説明を行った。
 - ・中川村の人口の現状分析について
 - ・中川村人口ビジョン及び総合戦略策定について
 - ・中川村人口ビジョン及び総合戦略策定体制について
 - ・中川村総合戦略検討委員会の今後の予定について
 - ② 村民意識調査の実施について（資料3）
事務局より、以下の説明を行った。
 - ・中川村まち・ひと・しごと創生総合戦略村民意識調査実施概要（案）
 - ・中川村意向調査設問一覧（案）
 - ・まち・ひと・しごと創生とは（意向調査同封用チラシ）
 - ③ 意見交換
委員：商工会の中には、企画経営委員会というのがあり、企業の減少が続き維持が難しくなる中で、どのように取り組めばよいのか検討をしている。これから、3年間検討し、結果を出したいと考えている。
一番の問題は、後継者の不足であると認識している。商工会と農業とが一緒になって新しいことを始めたいと考えている。
中川村に住みたいのだけれども土地がない。具体的にいうと農地の転用が難しいと

ということがある。そのため話が進んでいかない。簡単に中川村に住むことができないという現状がある。

子育てに関しては、中川村に帰ってきたいのだが、生活の基盤となる仕事が少ないということが問題である。村外にも営業をしているが、今後の見通しが不明である。地方の企業は厳しい状況にあるということを商工会全体で感じている。

アンケートを見て、中川村はいいところであるといわれるが、どこがよいのかと考えると、自分も中川村は本当に良いところであるのか疑問に思ってしまうことがある。これからの中川村について真剣に考えなければならないと思う。

委員：住民意向の確認としてアンケート調査を行い、計画に反映することは必要であると考え。本日配布されたアンケートの内容については、この通りでよいと考える。事業者に対するアンケートについては、一部、従業員に対する経営者の親族の割合や、村外から通勤している従業員の割合なども確認してはどうかと考える。私が、一般の企業の方と話をするときには、村内の従業員の数を聞く場合がある。なぜかという、村内の従業員が多いということは、その会社に魅力があると判断できる。村を良くするための人が、村内から来ていることというのはとても良いことである。調査全体についての異論はない。子どもの進学を見ていると、大学だけでなく、専門学校などへも目的を持って進学している方が多く見られる。これらを確認しながら、将来的な展望を構築して頂ければと考えている。

委員：女性は、仕事をもちながら家庭の中でもしなければならぬことが多いわけであるが、子育てについて考えたとき、私たちの世代の人は「ずく」があったと考えている。現在の人は、結婚を考えた場合でも、「めんどくさい」と考えている人がいる。一回、離婚すると、再婚しようと思えない方がいる。子育てに対する支援については、両親と暮らす世帯が少なく、両親と若夫婦は別々に生活することが多いと感じている。もっと、親を頼ることが必要なのではないかと考える。出産や子育ての中で、親が家庭内で支援をすることができるかと考える。中川村に住みたいけれども、仕事がないという声を良く聞く。中川村は自然が美しくすばらしいところであるが、働くところがないとの意見を良く聞くので、今回のアンケートの結果を受けた計画策定では、色々な議論ができればよいと考えている。

委員長：未婚という問題、離婚率という問題。結婚相談員という立場から、どのように考えているのか。

委員：私たちの時代と現在を比べると、意識がだいぶ違うと感じる。成人となり、就職し、その次の過程が結婚という考えが、現在は、少し違ってきていると感じている。「私はそうではない」「私は違う」ということを言う方もいる。色々聞いてみても、「そんなことを言われても、私はあなたに迷惑をかけていますか」と、こちらが驚くようなことを言われてしまう。結婚相談についても、後から背中を押したり、引っ張り上げたりしているが、なかなかうまくいかない。村内は、片親と結婚していない子どもの世帯が増えている。未婚者の年齢別の割合を見ても、時とともに年代が上がっているだけであり、結婚していない人はそのまま年を重ねてしまっている。年齢が高くなっても、意識は若いときのままとっており、危機感がない。ここで結婚して家庭を持ち、子どもを設けないと家の継承が成り立たないし、高齢の親も助けることができないと

助言しても、あまり反応がなく、非常に厳しい状況であると結婚相談員は感じている。結婚相談所への女性の登録は少なく、結婚したいという夢や希望がなく、婚活の催しにも参加しないなど、結婚に対する熱意を感じられない。

委員長： どうしていったら良いかについて、アンケート調査からヒントを得られればと考えている。

委員： アンケートを見させて頂き、中川村に住んでいる村外から移住して来た方の意見が反映される内容となっていないと考える。これらの方をターゲットとしたアンケートの内容も必要であると考え。中川村にどのような魅力を感じているのか、実際に住んでみてどのようなことを感じているのかについて聞くことが、中川村の人口を増やすためには必要であると考え。

委員長： 地域の宝物やそうでないものは、自分の周りにしかないということについて、その場所を離れて初めて気が付く。住んでいるところについてはいやなものしか見えないのが一般的である。ところが、良いものもそこに隠れている。そこに気が付けば、幸せな将来に向けての歩みを進めることができると考える。外から見れば、良いところが多くあると感じることができる。そのようなことから、移住してきた方へのアンケートも有効であると考え。

委員： 似たようなアンケートが送られてきたことがあった。とても重要なアンケートと感じつつ、設問数が多くてびっくりした。今回のアンケートも細かいところまで聞かれている重要なアンケートと考えている。依頼文についてであるが、村は、今回の計画を大変重要に考えていて、村をよりよくするためには皆さんの意見がとても重要であるという趣旨のことを追記して頂きたい。もう少し、心に響くものが欲しいと考える。アンケートを回答すること自体も、村を考えることになるので、依頼文の一部修正をお願いしたい。

委員長： アンケート調査の冒頭の文章の修正についての意見である。事務局で検討願いたい。

委員： 委員の発言の通り、アンケートの依頼文では、中川村が切実な状況にあるということが伝わってこないと考える。村外に住んでいる若者は、村への愛着を持っていると感じている。どんちゃん祭りの時などは、みんなが集まってくる。この案内文や図表だけでは、中川村が危機感を持っているということが伝わるか疑問である。松村委員の発言の通り、中川村に魅力があって移住してきている方もいる。これらの人は、中川村の人たちとふれあっているなかで、本当に幸せなのかと不安に思うことがある。移住者をのけ者にしてしまう様な風習があるのではないかと心配になるときもある。そのため、移住者へのアンケートについても検討をお願いしたい。移住者とも協力できるような付き合い方をしないといけないと思うし、必要であると考え。近所づきあいが重要であると考え。

曾我村長： 人口ビジョンについて、村独自のビジョンを策定することは重要であるが、長野県内の自治体のビジョンを積み上げると、長野県や国のビジョンを大きく上回ってしまうのではないかと危惧する。県の目標と、村の目標の関係について明確にしておく必要があるのではないかと。

委員長： 村の独自の目標を設定することは難しい。そのため、国や県の目標を念頭に設定

することが必要であると考え。ただし、国のビジョンがどのようになっていくか分からないなかで、村のビジョンを決めるのはさらに難しい。全国総合開発計画が策定された過去があり、それぞれの地域の人口配分が定められていたにもかかわらず、決してそのようになっていない。人々の動きは経済優先でとりあえず動いているので、計画を作ってみても、計画通りにはいかない。したがって、ビジョンは目標として設定し、それを実現するための戦略が大切ではないかと考えている。そのため、委員会として計画を実現するための方策と手段を内在した総合戦略を策定していきたいと考えている。そこに住んでいる人の幸せを前提とした戦略を策定することが必要であり、実現を前提とした計画とすることが望ましいと考えている。

事務局：県の会議でも、これについては問題となっている。基本的には、委員会のなかで決定したビジョンで良いとされている。しかし、国や県のビジョンも参考にして定めるよう指導されているので、全く無視することはできないと考えている。国、県の数値を参考としつつ、委員会で決めていきたいと考えている。

アンケートの内容についての意見への対応であるが、小林委員の発言になった事業者へのアンケートへの提案については、対応したいと考える。また、松村委員から発言のあった移住者に対するアンケートについては検討させて頂きたい。委員から指摘のあった依頼文については再検討する。

5 その他

次回検討委員会については、日程の都合から7月下旬を予定したいと考えている。改めて、ご連絡する。

6 閉会 21：00 終了

以上